

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 5 月 19 日 (2005.5.19)

【公開番号】特開 2004-518 (P2004-518A)  
 【公開日】平成 16 年 1 月 8 日 (2004.1.8)  
 【年通号数】公開・登録公報 2004-001  
 【出願番号】特願 2003-82653 (P2003-82653)  
 【国際特許分類第 7 版】

A 4 7 B 67/02

A 4 7 K 1/02

【F I】

A 4 7 B 67/02 5 0 2 D

A 4 7 B 67/02 5 0 3 A

A 4 7 K 1/02 B

A 4 7 K 1/02 E

【手続補正書】  
 【提出日】平成 16 年 7 月 12 日 (2004.7.12)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】特許請求の範囲  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

洗面化粧台の上部に、主鏡および左右の袖鏡からなる三面鏡を配設した化粧鏡ユニットにおいて、化粧鏡ユニット本体の主鏡寄りの部分にフレームが回動角度に節度を持ちつつ、水平方向に回動自在に取り付けられ、前記フレームの外側端に前記袖鏡が水平方向に回動自在に取り付けられ、左右の袖鏡は化粧鏡ユニットの前方中央部の位置でそれぞれの側端部が隣接され、以って主鏡の前方で左右の袖鏡を合わせた状態で使用者に向かってせり出して使用する際に、前記袖鏡の裏面で主鏡を傷つけないように、必要以上に袖鏡を主鏡側に移動することを抑制できるよう回動角度に節度を持たせたことを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 2】

キャビネット本体の前面略中央部に設けられた主鏡と、この主鏡の左右に配設された袖鏡と、この袖鏡で覆われる収納部と、を備えた化粧鏡ユニットにおいて、前記収納部の前面の主鏡寄りの部分にフレームが回動角度に節度を持ちつつ、水平方向に回動自在に取り付けられ、前記フレームの外側端に前記袖鏡が水平方向に回動自在に取り付けられ、左右の袖鏡は化粧鏡ユニットの前方中央部の位置でそれぞれの側端部が隣接され、以って主鏡の前方で左右の袖鏡を合わせた状態で使用者に向かってせり出して使用する際に前記袖鏡の裏面で主鏡を傷つけないように、必要以上に袖鏡を主鏡側に移動することを抑制できるよう回動角度に節度を持たせたことを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記主鏡が回動することを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 4】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記袖鏡の幅寸法は主鏡の 1 / 2 ~ 2 / 3 であることを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記フレームの縦メンバーが袖鏡の回動中心寄りの端部に設けられていることを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記フレームは前記縦メンバーと上下の横メンバーからなるコ字状をなすことを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 7】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記フレームをキャビネット本体に回動自在に取り付ける蝶番の回動軸を平面視で閉じ状態の袖鏡と重なる位置がそれよりも前方に位置せしめたことを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 8】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記フレームと前記袖鏡とを固定する袖鏡側蝶番の一方の台座を、前記フレームの裏側に固定するとともに、該袖鏡側蝶番の他方の台座を前記袖鏡の裏側に固定したことを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 9】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記フレームと前記袖鏡とを固定する袖鏡側蝶番の一方の台座を、前記フレームと一体に形成するとともに、前記フレームと前記化粧鏡ユニット本体とを固定する本体側蝶番の一方の台座を、前記フレームと一体に形成したことを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 10】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記左右の袖鏡の主鏡寄りの端部には左右の袖鏡を連結するためのマグネット、面状ファスナーまたはフックなどの簡易連結部材が設けられていることを特徴とする化粧鏡ユニット。

【請求項 11】

請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の化粧鏡ユニットにおいて、前記袖鏡の裏面には前記フレームの厚みを利用した小物収納部を備えたことを特徴とする化粧鏡ユニット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、本発明は、洗面化粧台の上部に、主鏡および左右の袖鏡からなる三面鏡を配設した化粧鏡ユニットにおいて、化粧鏡ユニット本体の主鏡寄りの部分にフレームが回動角度に節度を持ちつつ、水平方向に回動自在に取り付けられ、前記フレームの外側端に前記袖鏡が水平方向に回動自在に取り付けられ、左右の袖鏡は化粧鏡ユニットの前方中央部の位置でそれぞれの側端部が隣接され、以って主鏡の前方で左右の袖鏡を合わせた状態で使用者に向かってせり出して使用する際に、前記袖鏡の裏面で主鏡を傷つけないように、必要以上に袖鏡を主鏡側に移動することを抑制できるよう回動角度に節度を持たせた構成とした。

また本発明は、キャビネット本体の前面略中央部に主鏡が設けられ、この主鏡の少なくとも一側のキャビネットに収納部が設けられ、この収納部を袖鏡で覆うようにした化粧鏡ユニットにおいて、前記収納部の前面の主鏡寄りの部分にフレームが水平方向に回動自在に取り付けられ、このフレームの外側端に前記袖鏡が水平方向に回動自在に取り付けられた構成とした。

上記構成とすることで、使用者の姿勢をそのままにして、袖鏡を使用者の正面の真近な位置にもってくることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

キャビネット本体 3 の内部に形成された収納部 4 は、縦割り分割された左右の収納凹部 7、7 を備えており、中央の収納部は主鏡 11 が開閉戸の役目をなし、左右の収納凹部 7 には、取り外し可能な棚トレイ 8 が複数段設けられている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

【発明の効果】

本発明によれば、フレームの回動角度に節度をもたせることで、必要以上に袖鏡を主鏡側に移動することを抑制でき、袖鏡裏面で主鏡を傷つけたりしないようにしているため、使用者は安心して袖鏡を主鏡前方にせり出すことができ、また袖鏡を前方へ開いた状態で化粧鏡ユニットの前方略中央部に位置せしめることができ、洗面化粧台の中央部で鏡を広く使用することができる。

【手続補正 6】

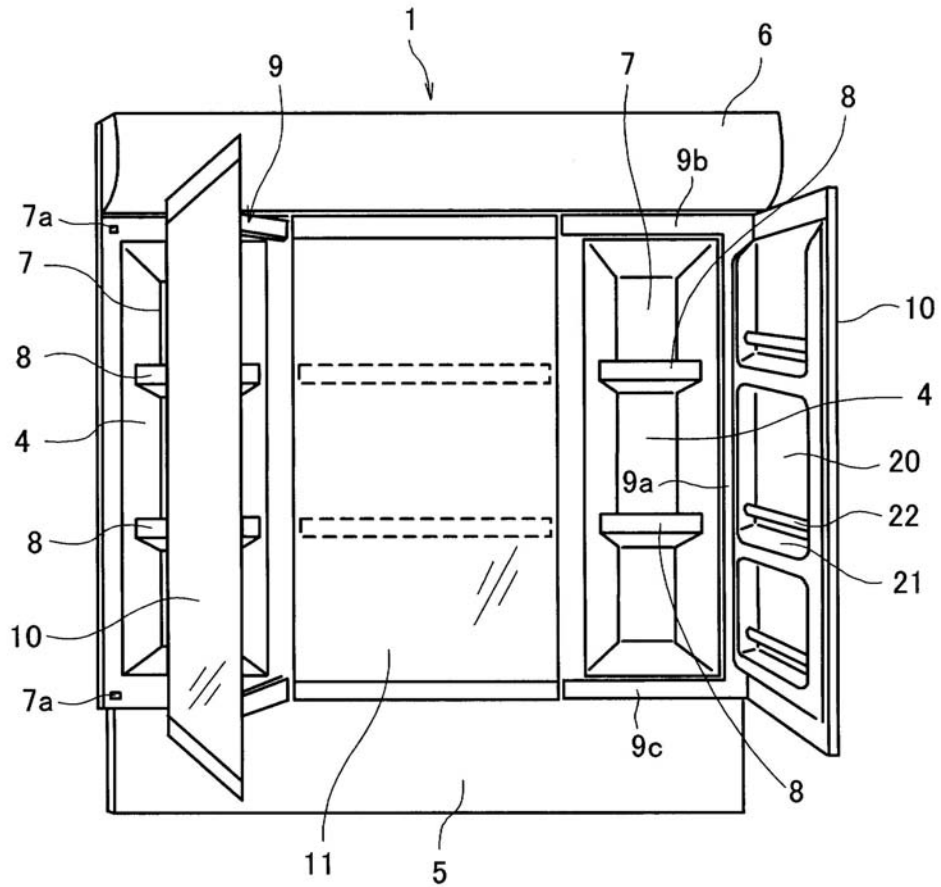
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2】



【手続補正 7】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 4 】

